

特集 南箕輪村の農業の明日は…

全国的な少子高齢化の中で、若年人口が比較的多い南箕輪村においても、農業従事者は減少を続けて、今や農地はあっても耕作希望者がいないため売りに売れず、貸すに貸せない状況が増えています。また、ネット環境や流通の発達で産地間競争も激しくなっ

おり、農業関係者には大変厳しい時代となっています。そんな中でも村内には農業に夢を託し、活路を切り開こうと頑張っている皆さんがいます。

今回は、そんな皆さんが村の農業の明日に対してどのように考えているのか、特集を組みました。

特殊作物の栽培に取り組んでいる武村さん



平成27年3月の農業委員会においてソーラーパネル下での薬用人参の栽培が許可され、新しい挑戦が始まりました。

「ソーラーシェアリング」——太陽光発電と農業のコラボレーション、薬用人参栽培全産地の中でもおそろしく初めての試みだと思っています。

作業空間は中型トラクターでの作業が可能であり、小屋掛けも常設であるため毎年の撤去や掛け替えの必要がなく、今までの薬用人参栽培では考えられない作業性の良さと労力の軽減が実現しました。また、施設費の必要もなく経営的にも恵まれています(通常10a当たりの小屋掛けで200万円ほど掛かります)。

しかし、栽培する薬用人参は直射日光、雨、風等に影響を受けやすく非常に気難しい作物です。栽培産地も島根県、福島県、長野県の東信地方等と限られており、栽培戸数も少なく減少傾向にある有望な作物です。栽培は土作りから8年くらいの年月が必要であったり、その収穫量も10粒種まきして4本という割合だったりと効率の悪い作物ではありますが、始めたからにはせひとも定着させて次の世代へ繋げていきたいと思っています。

●現在の状況は

一部の作業区(7割)においては、種まき、養生、防風ネット、遮光ネット張り順調に進み、昨年には作業が終了しました。

残りの作業区(3割)は本年4月に苗を植える予定です。また、薬用人参の栽培ノウハウを持っている企業から、技術指導も受けられることになりました。

最後になりましたが、農業委員会をはじめ皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。



武村 潔さん(大芝区在住)

集落営農組織の農事組合法人まっくんファーム



一村一農場の(豊)まっくんファームも設立5年を過ぎました。今年もよろしくお願ひいたします。

昨今の農業は、高齢化、若年後継者不足、またTPPの批准等先行き不透明なものがあり、農業の衰退、農地の荒廃が懸念される状況の中で、私たちは農家の皆さんの負担が少しでも軽減出来るよう、機械作業の受託はもちろんです。直営農地の引き受けを年々増やしたり、若い担い手を育てること等を目標に事業展開しています。

作業を通じて次第に若い仲間も育ちつつあり、この仲間たちが村の農業を支えるように育てていかなければと思っています。

農業における6次産業化等議論した経過もありますが、リスクを背負うよりも「餅は餅屋」、あまり背伸びをせず、農家の声も聴きながらできる事からやってみようとしています。

おかげさまで村の理解を得て財政支援もいただきありがとうございます。

色々な課題を背負っていますが、当面は村の農地の状況からみて米、転作には麦、大豆、そばの生産が主となり、野菜は別法人の「まっくん野菜家」と連携しながら耕作放棄地の増加を食い止め「農地の直営化と農作業の受託化」を推進していきます。その為には管理体制、人材の確保が大前提です。内部討議する中で良い方向を見出したいと思っています。農家・非農家を問わず意欲ある方の参加をお願ひいたします。

また、村が取り組んでいる「まっくん田んぼ体験隊」ちよこつと農業塾」等を通して多くの人に農業の大切さ、楽しさを発信出来ればと思います。協力していきます。オリジナル米の「風の村米だより」についても、地産地消が出来ないか? 取り組みたい事は多々あります。JAとも連携しながら南箕輪村の農業の行く先を見据えて頑張ります。社会情勢や天候の変動にも対処しなくてはなりません。組合員の皆様はもちろんです。村民の皆様、よろしくお願ひをいたします。



まっくんファーム代表理事組合長 堀 美津男さん

野菜栽培に取り組んでいる中島さん



村に移り住んで8年目、農業を始めて4年目になります。自分で栽培した野菜を食べたい、という考えから自家消費用の野菜栽培を始めましたが、野菜作りの魅力に引き込まれ、次の年から会社勤めを辞めて新規に就農をしました。就農に際しては不安もあり、何から始めて良いかわからず途方に暮れていましたが、地域の方から農地の紹介をしていただいたり、行政の担当者の方には新規就農の相談に乗っていただいたりと心強く大変助かりました。

野菜栽培中心の営農をしています。秋の時期は白ねぎ、ブロッコリー、キャベツの収穫と出荷に追われています。現在は家族と、農業について勉強しているアルバイトなどと一緒に営農していますが、冬の栽培作物がなく、安定した雇用体制と収入確保が難しい状況なので、ハウレンソウや小松菜を栽培して1年を通じた出荷の確保を検討しています。また、現在、野菜の苗は購入していますが、コストカットの面からも自分で育苗して苗を調達していきたいです。

今後は、有機栽培による野菜作りにも取り組んでいきたいと考えています。安心安全でおいしい野菜を作り、地域の皆さんにそんな野菜を食べていただきたい。そして地域の皆さんばかりでなく、独自の流通ルートの確保やインターネットでの販売により、より多くの方に食べて欲しい。そうすることによって、農業を通じて地域が元気になっていくのではないかと。そして私が地域の方から助けていただいたことへの恩返しに繋がるのでは、と考えています。



中島 鉄矢 さん(田畑区在住)

リンゴ栽培に取り組んでいる唐澤さん

日本の農業は厳しい現実に向き合っていると思います。

私が嫁いだ家は、夫の父親が先代の農家を継いで果樹を改植しながら面積を増やし、リンゴを育てています。結婚して舅の育てたリンゴを食べたとき、リンゴってこんなにおいしいものなのかと驚き、今まで何とも思っていなかったリンゴが好きな果物になりました。

ちょうど嫁いで10年。子どもも4人授かり転機を迎えたという実感があります。農業を始めやすい環境に恵まれていたのと、子育てしながら働くには農業が向いていると姑に後押しされ、この度、親元就農者になりました。

まだ始めたばかりで、今ある農地だけでは足りず、規模を拡大しようと思っているのですが、「長期的に借りられてまとまっている農地」と条件を付けてしまつと中々良い農地が見つかりません。折り合いを付けながら探していこうと思います。

農業のこと、リンゴのこと、まだまだ何も分からない状態ですが、舅を初め役場の方、JAの方、農業改良普及センター、先輩農業者など周りには相談できる心強い方たちがいるので、これから先やっていけると確信しています。

たくさんリンゴを作り、舅が保育園児を招待した小学校のリンゴ学習を行ったりしているように、私もそんな風に地域に貢献したいです。私がリンゴを食べることで感動したようにたくさんの人にリンゴのおいしさを分かってもらえたらうれしいです。みんなに喜んでもらえるような果樹経営をしていきたいと思っています。



唐澤 佐帆 さん(大泉区在住)
平成28年から親元就農

酪農業に取り組んでいる城田さん



私は大芝地区で酪農業を営んでいます。飼育形態は繋ぎ牛舎で、経産牛92頭、育成牛35頭を、私、妻、父、母、弟の5人で飼育管理しています。仕事の分担としては、搾乳を私と父が、哺育を妻と母、給餌を私、父、弟、圃場(牧草畑)管理を私と父が行っています。近年感じていることは、素牛、配合飼料、堆肥処理に用いる副資材等、飼育管理に必要不可欠な資材の高騰が続いており、自家育成や自家牧草の確保が重要なことです。

また圃場管理をしていると空き缶や家庭ごみが捨てられているのが目立ちます。これらのごみが収穫の際、気を付けていても牧草に紛れ込んでしまいます。それを牛が食べてしまうと胃や腸、心臓を傷つけてしまい、場合によっては助からないこともあります。

今後の目標は地域の皆さんと交流を深めていくことです。その第一歩として「おもてなし牛乳」を発売しました。これからも様々なイベントに参加する等して、より多くの方に知っていただき、上伊那で搾られた牛乳を届けていきたいです。

また、この「おもてなし牛乳」をきっかけに「酪農」という仕事や「牛乳」がどのようにしてできるのか興味を持っていただきたいと思います。

そして、私たち酪農家は安心安全で楽しい酪農(らくのう)を目指していきたいです。



城田 裕也 さん(大芝区在住)

村産業課農政係長の有賀さん



有賀 正浩 さん

命頑張っている若手農業者もいます。また、各種農業関連のイベントも増加させています。中でもまっくんファームと連携して実施し

現在、村を取り巻く農業問題で最も大きな課題は担い手不足の問題ではないでしょうか。2年前より1年前、1年前より今年というように年々、農地を貸したい、売りたいという相談が顕著に増えてきています。また、村内で大規模に農業を営んでいた農業者が高齢化等の理由により、もう農業ができず、後継者もないという話も年々増えてきています。この状態が続けば、耕作放棄地は増加する一方です。

解消していければと願っています。また、平成28年4月に南箕輪村地産地消促進計画を策定しました。その計画の中では、5年後までの取組目標として、イベントの充実による生産者と消費者の関係強化、直売所や加工販売施設の充実による農産物の消費拡大、保育園・学校給食における地元産農産物の利用促進による子どもたちの食への関心の強化、などを掲げています。小さなことから取り組み、そのことで担い手の方が地元の人に消費してもらう喜び、消費者が地元の農産物を食べる喜びにつながり、少しずつでも課題が

ている「まっくん田んぼ体験隊」は上伊那農業高校の生徒や信州大学農学部那学生がまっくんファームとともに中心となって活動をしており、参加者の満足度も非常に高く、年々参加者も増加しています。また、この活動に関連し、まっくんファームの特別栽培米を高校生たちが「風の村米だより」と命名し、給食への利用やふるさと納税の返礼品での利用を少しずつ押し進め、ブランド化を図る活動も行っています。

「特集 南箕輪の農業の明日は…」に寄せて

農業委員会だより編集委員長 日戸 正志

「農は食のみなもと」。今回登場していただいた農業者の皆さんからは、国の農業政策に惑わされることなく、やりたいことをやる、そんな心意気と農業への信頼が伝わってきます。

今日の日本では、農業で生計を立てていくことは並大抵なことではありません。栽培や飼育に関する管理能力に加え温暖化で気象変動の激しくなった昨今は、それに機敏に対応することも、市場と対話しつつ農の営みを考える経営能力も求められます。大規模化やグローバルな取引は工業の産品には求められるところかもしれませんが、農産物は逆に地産地消が求められませんが、農産物は逆に地産地消が求められる時代です。移送距離が少なく新鮮で信頼できる安価なものを供給できる地産地消は食の安全に大きく寄与し、その農の営みは住環境としての地域の田園風景の保全にも資することになります。

ここに登場していただいた皆さんのほかにも、南箕輪村には大勢の農業者がいて、食料の生産に日々励んでいます。統計上の金額として現れる数字は小さいかもしれませんが、このような農の営みのもたらす効果は計り知れません。また、村の農政担当部局からのご意見もいただき大変参考になったところであります。

林業をタメにし、山を荒れさせた愚を、農業で繰り返すわけにはいきません。農業の明日を担う人々の挑戦に大きな期待を寄せるとともに、農業の置かれている現状への認識を改めて考え直す時期に来ているのではないのでしょうか。

最後になりましたが、お忙しい中取材や執筆にご協力をいただきました農業関係者の皆様に対し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

農地相談会を開催します。
農業委員が、農地の様々な相談事に対応をする「農地相談会」を左記の日程で行います。秘密は守られ相談費用は無料です。事前に事務局まで相談内容をご連絡ください。
日時：1月13日(金)午後7時から午後8時30分まで
会場：役場住民相談室(1階)

皆様からの農業に関するご質問、ご意見、農業委員会だよりの感想などお寄せください。

南箕輪村農業委員会事務局
〒399-4592 南箕輪村4825-1
(役場産業課内)

お寄せいただいたご質問、ご意見、ご感想は読者の皆様と農業委員会の交流の場として次回以降の「農業委員会だより」の紙面へ掲載する場合があります。あらかじめご承知おきください。

編集を終えて
早いもので、議会推薦にて農業委員となり、本年の7月まで半年の任期となりました。農業委員とはなんぞや！と始まりましたが、法律や私の主作物の花弁以外の農作物のイロハからと、怒涛の2年半が過ぎました。その間にPPPやトランプ現象、セサミ・スライス政策等々周りの環境、経済が濁流をあげ変化する中で地元の農業はどうしたもんじやろの〜と考えがまとまりません。

しかし、今回の特集における村の農業関係者の意見を見て、とても前向きに農業を考えられ、希望をもらいました。

最後に私の主作物である花卉産業の世界的な流れについてですが、花大国のオランダは大市场がさらに統合され、EUにおける特に生産者側の流通が(輸出も)集中化する方向に変わってきています。日本の市場もそうなるのか、それとも各地方市場が頑張るのかと、とても注意深く見えています。

とにかく、がんばるぞー！(編集委員 加藤秀樹)